

令和2年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①自己肯定感を高める学習活動と教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を実現するための教育課程編成に取り組む。</p> <p>②「わかった・できた・つながった」を生徒が実感できる評価・授業の在り方の再整備を進める。</p>	<p>①生徒の自己肯定感を高める授業について、対話的・主体的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの授業改善を行う。</p> <p>②教科等横断的な視点に立った資質・能力の中で、どのような資質・能力を育成するかを組織として検討し共有する。</p> <p>③「わかった・できた・つながった」を実感できる授業が評価に結びつくような評価方法について検討する。</p>	<p>①対話的な学び、主体的な学び、深い学びの各視点のいずれかを設定し、その視点を取り入れた授業について研修会等を通して研究・実践する。</p> <p>②教科でどのような資質・能力を育成するかを検討し、教科目標を設定する。その目標に合わせて学校設定科目の位置づけを明確にする。</p> <p>③授業の活動の評価方法を科目ごとに設定し、教科全体で共有する。</p>	<p>①主体的・対話的で深い学びについて教員の理解が深まったか。</p> <p>②設定された教科目標に沿って、学校設定科目の意義を共有できたか。</p> <p>③評価について教科で意思統一できたか。</p>	<p>①全教科で研究授業を実施し、他教科の授業見学を全職員で行うとともに、各視点にポイントを置いた授業の取り組みについて共有し、意識が高まった。</p> <p>②学校目標で掲げられている資質・能力について、具体的な要素と手立ての理解を深め、教科で共有できた。</p> <p>③学習の階層化や短いスパンでの評価と学ぶ姿勢の見取り方について共有できた。</p>	<p>①新型コロナウイルスの影響もあり、対話的な学びでは新たな工夫も求められた。今年度の取り組みを踏まえて、ICTを活用した効果的な実践事例の共有等を図る必要がある。</p> <p>②各教科での授業実践を共有していく。</p> <p>③なかなか学習に向かうことができない生徒への指導・支援の方策を共有し、評価につなげる。</p>	<p>・生徒の活動が見える授業となっており、主体的・対話的な学びが行われている。今後も授業改善に取り組み、深い学びが生徒主体で行われることを期待する。</p> <p>・外部人材の活用などに積極的に取り組んでいる点は評価できるので今後も推進して欲しい。</p> <p>・生徒の自己肯定感を高めていく授業および評価を実践していくためにより積極的な教科間の連携を進めていただきたい。</p>	<p>①学校教育目標の実現に向けた研修会を実施し、授業改善を意識した研究授業を通して組織的な取組を推進することができた。生徒による授業評価等においても、「わかった・できた」につながる授業に対する評価は高かったが、一部で評価のばらつきも見られた。</p> <p>②新教育課程の編成に向けて学校設定科目の検証と新たな取組への検討を推進することができた。一部の科目において、継続的な検討を行い、学校教育目標の実現を目指した新教育課程を整備する。</p> <p>③すべての教科において、評価の在り方について検討を行い、フロンティアスクールである本校の評価の在り方について共通理解を図ることができた。</p>	<p>①生徒による授業評価等の結果をもとにしたモデル授業の提示などを継続し、効果的な取組の標準化を図り、さらなる授業改善に結びつける。</p> <p>②新教育課程の編成と実践に向けた研究を継続するなかで、従来の外部組織との連携状況を検証し、特に学校設定科目において、より効果的な指導体制の確立を目指す。</p> <p>③発達の課題を抱えた生徒や外国につながる生徒などへの支援の視点を踏まえた指導と評価の在り方について具体の検証を実施する。</p>
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒の規範意識を定着させ、社会の一員としての自覚と自己有用感を涵養する。</p> <p>②「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制により、生徒自己の課題に気づき、その解決に向けて行動（相談）する力を育む。</p> <p>③学校行事や部活動等を通して、生徒の社会性を育み、豊かな人間関係を構築する力を育む。</p>	<p>①規則やルールを守ることの重要性を伝え、社会の一員である自覚を持たせる。</p> <p>②生徒が自己の課題に気づき、その解決のため行動できるよう支援する。</p> <p>③学校行事において、生徒が主体的に動ける環境を整え活性化を図る。</p> <p>④部活動加入者の継続と新入部員の獲得に向け、活動の場を広げられるよう広報活動を推進する。</p>	<p>①問題行動を未然に防ぐために、巡回指導や講演会を実施する。</p> <p>②生徒の課題を的確に把握するためのアンケートの実施や改善に向けての研修会を実施する。</p> <p>③教職員が生徒と丁寧にかかわることで意欲を引き出し、主体的な役割を広げる。</p> <p>④部活動の環境を整えながら、入部率が増加するようアナウンスの場面を増やす。</p>	<p>①問題行動を前年より20%減少させることができたか。</p> <p>②地域相談機関との連携がしっかりとれたか。</p> <p>③生徒会執行部やフロンティアチームが計画的に学校行事に携わることができたか。</p> <p>④部員の定着が図れたか。入部率が30%程度になったか。</p>	<p>①講演会の実施はできなかったが、2月時点で問題行動は42%減少することができた。</p> <p>②生徒の抱える問題について、外部相談機関等との情報共有を行った。</p> <p>③学校行事の中止や縮小がみられたが、その中で生徒が主体的に参加し、工夫をすることで盛り上げることができた。</p> <p>④部活動入部率23%と停滞したが、1年次の入部率が高く制約の多い中で活動の場を広げた。</p>	<p>①指導が必要な生徒の抱える問題をきめ細かく捉え、支援も含めた指導を検討していく必要がある。</p> <p>②生徒自身が、自己の課題を把握し、解決に向けて、自ら行動できる力を育成することも研究する必要がある。</p> <p>③教職員が生徒と積極的にかかわり、意欲を引き出しサポートすることが必要である。</p> <p>④制約の多い中で、部員の定着が図れるよう、さらなる環境づくりと教職員のかかわる時間の確保を検討する。</p>	<p>・様々な場面で教職員による生徒への働きかけはできており評価できる。</p> <p>・学校行事などでは生徒自身が積極的に工夫し、活動を活性化させる場面も見受けられた。</p> <p>・生徒が社会の一員として自覚を持って行動できるようになるためには、より一層社会につながる場を設けることも必要なのではないかと。</p>	<p>①新型コロナウイルスの影響もあり、問題行動は大幅に減少したものの、生徒の抱えた課題について十分に把握できていない部分も想定される。社会とよりよくつながる力を育成するためにも、外部機関と連携した講演会などを企画していきたい。</p> <p>②教育相談室の設置や、外部機関等との連携などにより、発達の課題を抱えた生徒や家庭の問題を抱えた生徒などへの支援体制が徐々に整備されつつあるものの、該当する生徒の数が多く、一方的な支援のみでは不十分な点も見受けられる。</p> <p>③④新型コロナウイルスの状況を踏まえた取組を行ったが、十分な結果には結びつけられなかった。</p>	<p>①問題行動の背景が多様化しており、職員の努力だけでは対応しきれない。外部機関等との連携を図る際に、期待する協力関係が成立しにくい場面もあることから、新たな仕組みの導入も検討していきたい。</p> <p>②生徒一人ひとりの意識を高めることが求められることから、入学時より早期の情報提供、学習機会の確保などに努める。</p> <p>③④生徒の意欲を活かし、達成感を得られるために、学校行事や部活動の効果的な実施に向けた準備と広報活動に取り組む。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	社会生活実践力を育成し、主体的に進路設計ができる力を身につけさせる。	生徒が主体的に将来を考え、個々の能力、関心、適性に合った進路実現を支援する取り組みを進める。	・外部の機関等も活用することで、他者理解を深め、自己の勤労観、職業観を具体的に想像できるよう取り組みを行う。 ・生徒一人ひとりの進路希望の実現のため、総合的な探究の時間等の充実を図る。	・説明会や講演会などを適切な時期にふさわしい内容で実施できたか。 ・非正規雇用希望者はいないか。また、進路実績は就職、進学ともに希望者の90%を達成できたか。	・新型コロナウイルスにおける制約の中、就職、進学とも希望者へ丁寧な指導を行った。 ・就職活動については前年度に比べて活動の長期化と内定の減少が見られた。 ・昨年度に引き続き、非正規雇用は0名となった。	・「総合的な探究の時間」や、今年度から3年次に開講した「職業」において、勤労観や職業観をより具体的に育成できるよう、1年目の成果と課題を見据えてより充実した学習になるよう内容を見直してゆく。	・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら説明会や講演会を実施することができたことは評価できる。 ・多様な進路希望に対応する指導を粘り強く行い、生徒の進路実現を支援していただきたい。	・新型コロナウイルスの影響で各種説明会や講演会などが中止となる中で、卒業年次の多くの生徒が進路実現に粘り強く取り組むことができた。 ・将来を見通したキャリア形成に関しては生徒によって意識の差が大きく、入学から卒業までのキャリアプログラムについて逐次検証することが求められる。	・緊急事態なども想定して、早期から継続したキャリア教育を実施していくことが求められる。 ・3年次以降に設置した学校設定教科「職業」を効果的に活用した学習などを通して、生徒の社会生活実践力を育成する体制を整備する。
4	地域等との協働	①地域や外部の諸機関等との連携を図り、地域とともに学びあう教育活動・学校運営を行う。  ②教科指導等における連携・協働を積極的に推進し、生徒の成長の見守りと学校に対する理解と信頼を深める。	①これまで築いてきた地域との連携を整備・精査し、生徒も積極的に関わられるような取り組みを深める。  ②教科活動や特別活動に地域や外部の諸団体の方にも加わっていただき共に生徒の成長を促す。	①近隣の保育園・小中学校との授業連携、地域の催事等への参加、ボランティア活動、学校説明会等の参加などを拡充し、地域の本校への理解を進め、生徒の自己肯定感を育む。 ②教科活動や特別活動への講師導入やめいさぼ先生など、地域の人材との交流により、生徒の成長を促す。	①学校説明会や地域の行事等への参加生徒数が増加し、生徒の成長を促すことができたか。  ②外部へのボランティア活動の生徒数が5%程度増加し、満足感を得たか。	①新型コロナウイルスのため本年度の外部の学校説明会やボランティアの機会がなく、昨年まで実績があったものにできていない。  ②社会福祉基礎、児童文学研究、音楽、発展保育の科目において、外部講師の導入を実施し、めいさぼ先生の仕組みを活かした授業も展開した。	①感染症の鎮静化を待たないと、ボランティア活動の活性化を促すことは難しいが、関係機関等との連携維持や新たな開拓の準備を進めてゆく。  ②外部講師の招聘費用が、地域連携と学習支援とに分割して配当されているので、相互の連携を取りたい。	・本年度は地域のなかに生徒の活動の場を設定できなかったことは社会状況をかんがえろと仕方がないことであろう。 ・地域も同様に新しい活動を模索している。 ・学校と地域の双方が情報交換を続け、これまで育ててきた地域と学校との交流を絶やさないようにしたい。	①新型コロナウイルスの影響がある中で、校外での学校説明会や地域のボランティア活動などはほぼ中止となってしまった。  ②学校設定科目や専門科目等で外部講師による授業等を実践したものの、一部は中止とせざるを得ず、年間計画の見直しを図った。	①社会情勢を見ながら、可能な限り校外での生徒の活動機会を確保していきたい。  ②地域連携を強化するためにも、外部団体等との協力関係を重視しながら教育活動を行ってきたい。
5	学校管理 学校運営	①生徒の安全と教育環境を確保し、耐震工事への対応と新校舎の効果的な使用方法を策定する。  ②地域と協働した防災体制づくりと防災教育を推進する。  ③事故不祥事防止を推進し、学校に対する信頼を深める。  ④教員のワークライフバランスを推進するとともに生徒と向き合う時間を確保するため組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①施設設備の有効活用を検証し、快適で安全な学習環境を整備する。  ②地域の防災拠点と連携した訓練を実施し、意識の向上を図る。  ③事故不祥事防止に向けて予見的啓発に取り組む。  ④WEBを利用した打ち合わせや少人数の会議を時間割に組み込むなど、効率的な会議運営を行う。	①生徒にとって有効な活用方法を検討し効果的な設備品の配置を行う。  ②緊急時の避難計画など地域と協働した学校防災計画を策定する。  ③対生徒・対職員のSNS活用に関する事故防止研修を実施する。  ④掲示板やチャットなど、可能なアプリケーションを活用する。	①改修校舎が生徒にとって使いやすくなったか。備品を効果的に配置できたか。  ②地域との連携内容を防災マニュアルに反映し、避難訓練等を計画的に実施したか。  ③事故不祥事防止研修は十分な回数を実施でき、不祥事はなかったか  ④放課後の会議の時間は減ったか。	①各教室での視聴覚機材や情報機器については効果的に配置できた。各授業での使用も盛んである。  ②予定していた地域との防災訓練は新型コロナウイルスのため実施できなかった。  ③事故防止の研修会は昨年度と同じ回数を実施できた。大きな不祥事も起きていない。  ④打ち合わせや職員連絡についてはWEBを有効に活用できた。残念ながら会議の時間の減少には結びついていない。	①視聴覚機材はすべての教室に常時備えつけた。また、その管理体制を効率的な形に変更したい。  ②生徒のボランティア意識を高めるためにも避難所運営を想定した訓練を計画する。  ③研修会がマンネリ化しないよう注意する。特に新採用や新着任者、臨任、非常勤職員へのマニュアルの徹底や意識の向上に取り組む必要がある。  ④引き続きWEBの活用を推進し、打ち合わせ時間の短縮に努める。	・生徒がより積極的に授業へ参加できるICT環境などの整備が進んでいるようなので、今後も積極的な活用を進めていただきたい。 ・地域防災の視点からも防災訓練が実施できなかったことは残念である。連絡調整を進めさせていただきたい。	①新型コロナウイルスの対応などもあり、授業等でのICT導入が大幅に行われた。情報機器の効果的な利用などを進めるためにも、管理方法の整備などが不可欠である。 ②学校防災計画は計画通り策定できたが、地域と協働した防災訓練などは実施できなかった。  ③事故防止研修会などは計画的かつ必要に応じて実施できた。結果として、1年を通して大きな事故・不祥事はなかった。  ④年度当初より職員打合せの方法を変更し、効率化を図ることができた。総務室系職員など一部職員が十分対応できないなど、課題が残されている。	①特定の職員に業務が集中する状況があるが、県全体の取組を中止しながら改善を図っていく。  ②地域との連携を図るよう、新たな計画を推進する。  ③職員の異動も多いことから、研修会を効果的に実施していくことが求められる。  ④県全体のシステムなどの整備状況を踏まえて、校内の体制の検証、整備に引き続き取り組む。